

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年6月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2870800683		
法人名	有限会社日本健康管理システム		
事業所名	グループホームあさがお		
所在地	神戸市須磨区塩屋町4丁目19-16 (電話)078-752-0676		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成19年4月23日	評価確定日	平成19年6月29日

【情報提供票より平成19年4月6日事業所記入】

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤7人、非常勤13人、常勤換算14.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	3階建ての2階～3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(4月6日現在)

利用者人数	15名	男性	4名	女性	11名	
要介護1	5名	要介護2	6名			
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	85歳	最低	68歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村海浜病院
---------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

塩屋駅から徒歩6分、瀬戸内海の見える高台の元保養所を改築した建物で、各居室は床の間や濡れ縁、窓等趣向がこらされていて、ゆったり過ごせる雰囲気である。管理者、職員は利用者の心身の変化に気を配りながら、利用者と和気あいあいと生活している。利用者個々の違いを大切にしながら、共同作業を通して、利用者同士、利用者と職員のいい関係づくりに取り組んでいる。前回の評価を活かして地域との積極的な交流を図り、利用者が地域の住人として生活できるよう理解と協力を得る働きかけをしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 記録作成と地域との交流を前回の評価の課題とし、具体的な目標として日々実践してきた。事業所の空スペースを地域ケアの教室や会議に利用してもらったり、在宅の認知症家族の会で話をしたり、見学を受け入れる等、地域との交流、ホーム機能の還元にも努めてきた。利用者も地域の高齢者対象のふれあい喫茶に出かけている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 管理者と職員で自己評価をした。その作業の中で、利用者の状態把握で管理者と職員の受けとめ方の違いがあり、話し合いを重ねている。それぞれのスタッフの持ち味や、認識の幅の違いもわかり、全体を見渡すことの大切さを感じた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 事業所側からの報告が主である。前回の評価については、自己評価の内容と外部評価の結果を報告が、話し合いや意見が出るには至っていない。事業所は開催曜日を工夫して参加家族が固定しないように配慮している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の要望はできるだけ実現させる姿勢であるが、要望の中には利用者の現状とのギャップがあって実現がむずかしいものもあるが、家族に利用者の現状をわかってもらいできることを行っていくよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 事業所の空スペースを地域ケア会議や家族介護者リフレッシュ教室に提供したり、認知症の家族の会で話したり、グループホームの機能を地域に還元している。利用者は自治会の婦人会が開いているふれあい喫茶に出かけたり、地域の清掃活動に参加したりして地域住民と交流している。商店街の人も声をかけてくれる。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所は「アットホームな雰囲気の中で生きがいと喜びを持って穏やかに暮らせるよう、ゆっくり、一緒に、楽しく」を理念としているが、更に地域との関係性の明示が必要である。		・地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性の強化を盛り込んだ地域密着型サービスとしての役割を目指した理念を作ることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・事業所に理念を掲示して、ミーティング等でも確認しながら日々のケアで実践している。		・職員は急かさず、利用者のペースで、できないことを受け入れ、急がず一緒に楽しくゆったり過ごせるよう心がけている。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入し、地域の清掃活動、地域の祭りや自治会のふれあい喫茶に参加している。また、事業所の空スペースを地域のケア会議や地域包括支援センターが主催する家族介護者リフレッシュ教室に提供している。		・利用者は地域の商店街に出かけ、地域の人との交流を進めている。地域住民からも利用者に声かけや、ホームの網戸洗いを手伝ってくれたりする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・全職員で自己評価を行った。その過程で管理者と職員で話し合った。外部評価の結果について改善点を具体的な目標として取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・家族、地域包括支援センター職員、地域住民、見守り推進委員、民生委員、管理者、職員で定期的に運営推進会議を開いている。事業所からの報告が主で、メンバーからの意見は出ない。自己評価の内容、外部評価の結果を報告している。</p>		<p>・事業所は参加者の負担にならないよう会議の日程や内容を工夫している。更に参加メンバーが積極的に発言する全員参加型の会議運営を期待したい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・生活保護を受けている利用者の担当ケースワーカーと話し合いをしている。地域包括支援センターの活動に空きスペースを提供しているが、区の職員との連携はない。</p>		<p>・現場や利用者の課題解決のため、区の担当窓口で事業所の実情を伝え、理解と協力を得ることが求められる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・手紙、あさがお便り、電話等で、暮らしぶりや、金銭管理、健康状態を、定期的に、かつ必要に応じて報告している。家族来訪時には、踏み込んだ話をしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族等の来訪時に利用者の様子を伝え、家族等からの意見や要望、苦情を聞いている。要望等が出れば管理者、職員で話し合い、日々のケアに反映させて、便りで家族等に知らせる。</p>		<p>・要望に対して、日々のケアに反映させ努力をしているが、家族会を設け、家族同士の場で意見が出やすい環境作りをする等、より積極的に苦情や意見が出しやすい取り組みがあればなおいい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・常勤の職員の異動はない。非常勤職員が代わる場合でも常勤職員が引継ぎに配慮し利用者へのダメージを少なくしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・事業所内で認知症ケアの知識学習やリーダーによる体験活用トレーニングをしている。この一年は外部研修には参加していない。</p>		<p>・研修計画を立て多くの職員の研修受講と研修の報告を全職員で共有する体制づくり等が望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・同業者との交流や法人内のグループホーム会議が毎月あり、連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・サービス利用前に本人に来てもらい一緒におやつを食べたり、管理者が自宅を訪問して説明したり、安心できる関係作りをしている。家族等にも来訪してもらい話し合っ利用者状態を把握し、家族等の気持ちも共有している。</p>		<p>・利用開始当初は家族等にしばしば訪問してもらおうよう働きかけている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・利用者と一緒に日常生活を送る中で出てくる、子育て、調理、昔話等から教わることも多い。利用者が他の利用者のことを心配したり、職員をねぎらう言葉があり、職員は元気づけられている。</p>		<p>・利用者に作り方を教わりながら甘酒を造ったこともある。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・日々のかかわりの中や家族にも協力してもらって、意向を聞くようにしている。ふとした言葉やそぶりから本人の思いを推し測っている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・管理者、職員が利用者の日常の会話や、家族の話から、本人がどうありたいと思っているかを話し合い介護計画を立てている。かかりつけ医やケースワーカーの意見も反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・毎日のミーティングで、状態の変化等を確認、把握し、計画に反映させている。必要に応じて家族にも相談している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・管理者や常勤職員に看護師を配置し、医療面での対応に則しているが、多機能性をさらに活かす必要がある。</p>		<p>・建物のスペースでの有効活用として、ショートステイやデイサービスなどの検討もされてはどうか。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・週に2回、内科医の往診を定例化しているが、家族等の協力により個別にかかりつけ医に受診している人もいる。毎日リハビリのため整骨院に通院している男性の利用者もいる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・母体法人では「看取り介護に関する指針」を定めている。全体での考え方、対応は統一されている。当ホームは、現時点では事例がないため共有化につとめつつある。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・個人の誇りやプライバシーには細心の注意をはらっている。時に応じ個人的楽しみにも尊重している。職員には仕事に関する内容をホーム以外に出さないよう注意し徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・職員が、居室で個々の個別のしたいことや思いをさりげなく聞き、その人のペースに添う対応をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・簡単な食事の準備や、後片付けなど、自分の役割として積極的にしている人や、職員の声かけにより参加する人など、一人ひとりに配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴の有無、入浴時間の選択を聞き、その日の体調や希望に合わせて行っている。		・入浴を楽しみとしてもらうよう、入浴剤などを利用している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・茶碗洗い、花の手入れや野菜作り、雑巾を縫うことを自分の役割をしている人、教師の経験から教えることを生きがいとしている人、スポーツ観戦を楽しみとしている男性などその人にあわせた支援をしている。		・行事や外出等の折には、ボランティアの協力も得ている。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買物外出は、事前に予定し、その日の体調や天候を考慮している。地元の商店街を歩くのを楽しみにしている人もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関は夜間のみ施錠している。エレベーターの前にはさらに扉を設置し、階段出入口には鈴をつけて出入りを把握している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回、全員で避難訓練を行い、エレベーター等設備定期点検もしている。地域の集会時には、情報交換も兼ね協力をお願いしている。</p>		<p>・地域の人と一緒に、ホームと利用者を守るべき、一体となる協力体制を築かれることを今後期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・体重チェック表を基に、おやつの種類、野菜の量を増やしたりとメニューの工夫をしながらカロリーを調節している。水分摂取の少ない人には好みの飲み物をすすめ、食事量とも平行してバランスをとっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・午前、午後定時に空気の入替えをしている。食堂兼居間のテーブルは複数配置され、個々の席も決まっており、思い思いに過している。季節の花を飾ったり、職員との共同作品を飾り変化をもたせている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・これまで使用していたものを持ってきてもらうよう説明している。ベッド等必要な場合は、中古業者を紹介したり、職員が持ち寄ったりと家族と相談しながら工夫している。</p>		<p>・各居室の広さ、作りも違っており、その人らしい個性が良くあらわれ居心地よく工夫されている。</p>

 は、重点項目。